

つながりサポート事業【神奈川県】

地域の実情と課題

引き続き、コロナ禍による環境変化により失業や収入減に陥った女性や、コロナ禍で課題が複合的となり自分の状況や課題がうまく整理できない女性が、相談窓口も分からず社会的に孤立した状態に陥っており、こうした女性への対応が喫緊の課題となっていることに加え、既に相談窓口につながった女性の自立支援も継続して実施する必要がある。

また、これらの女性を支援する人材の育成、スキルアップがあわせて必要となっている。

事業の特徴

①相談支援事業

受託者がアウトリーチ(訪問支援)等を実施、潜在的な支援対象者を見つけ出すとともに、対象者それぞれの課題の切り分けを行った上で支援計画を作成、適切な行政窓口や民間団体に同行支援を行った。

また、無料低額宿泊所に対してアウトリーチ(訪問支援)を実施し、入所する女性の相談を受け付けた。

②人材育成事業

生活困窮や社会から孤立した女性への支援経験のあるスタッフが、県及び市町村の女性相談員、他の民間団体の支援従事者、無料低額宿泊所運営者等に対し、支援事例の共有や相談者への援助技術の向上を目的とした研修を実施し、スキルアップを図った。

事業の効果

- ・ 同行支援件数: 507件(同行48件、他機関連携459件)
- ・ 女性からの新規相談受付件数: 3,221件
- ・ 研修参加者による有益度の評価: 1回目93%、2回目100%
- ・ 研修参加人数: 1回目55人、2回目53人、計108人

目的・目標

- ・ 同行支援件数: 465件
- ・ 女性からの新規相談受付件数: 990件
- ・ 研修参加者による有益度の評価割合: 80%
- ・ 研修参加人数: 350人

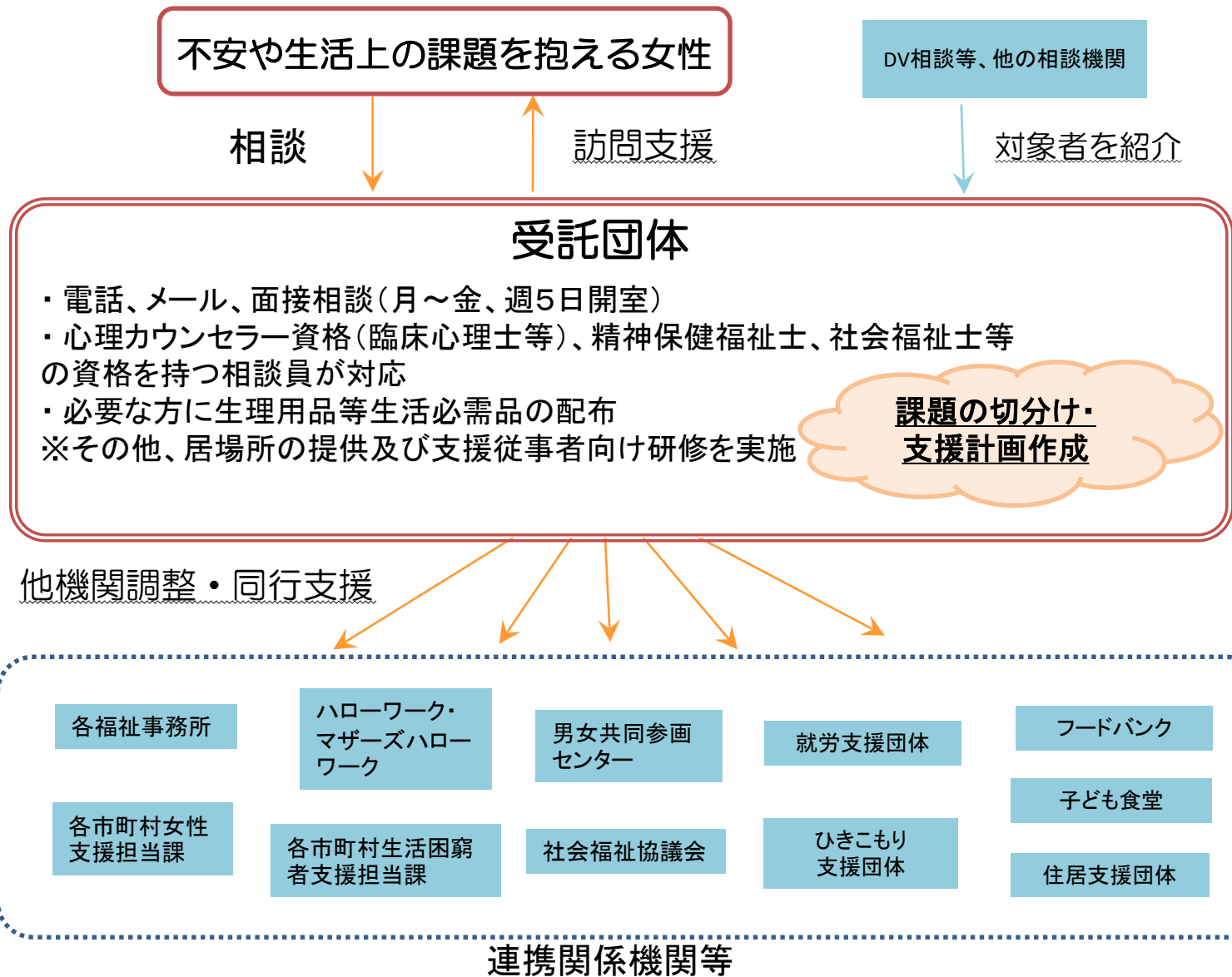
連携団体

- ・ (一社)インクルージョンネットかながわ【受託団体】
- ・ かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク 各所属団体
- ・ 市町村の女性支援・生活保護担当課
- ・ ハローワーク、マザーズハローワーク 等

今後の課題

- ・ 同行支援件数及び相談受付件数は、目標値を大幅に上回る結果となったが、令和3年度に引き続き、新規相談件数に対して継続(2回目以降)の相談件数が多く、相談から同行支援までに時間を要している。
- ・ 相談者の年代別内訳を分析すると、10代・20代の若年女性の割合が少ないため、今後はSNSの活用した相談方法の拡充等、若年層が相談しやすい体制づくりが求められる。
- ・ 人材育成事業については、想定以上の相談対応のため一部の研修開催を見送ったことや、周知広報不足により参加人数が目標を下回ったため、開催方法や広報の方法に工夫が必要である。

○ つながりサポート事業の概要



不安や生活上の課題を抱える女性

DV相談等、他の相談機関

相談

訪問支援

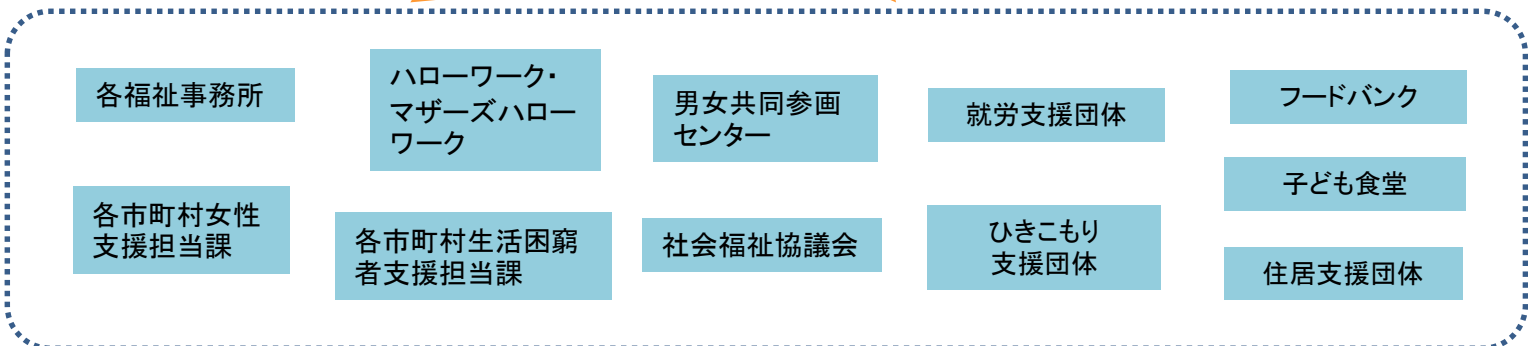
対象者を紹介

受託団体

- ・ 電話、メール、面接相談(月～金、週5日開室)
- ・ 心理カウンセラー資格(臨床心理士等)、精神保健福祉士、社会福祉士等の資格を持つ相談員が対応
- ・ 必要な方に生理用品等生活必需品の配布
- ※その他、居場所の提供及び支援従事者向け研修を実施

課題の切分け・支援計画作成

他機関調整・同行支援

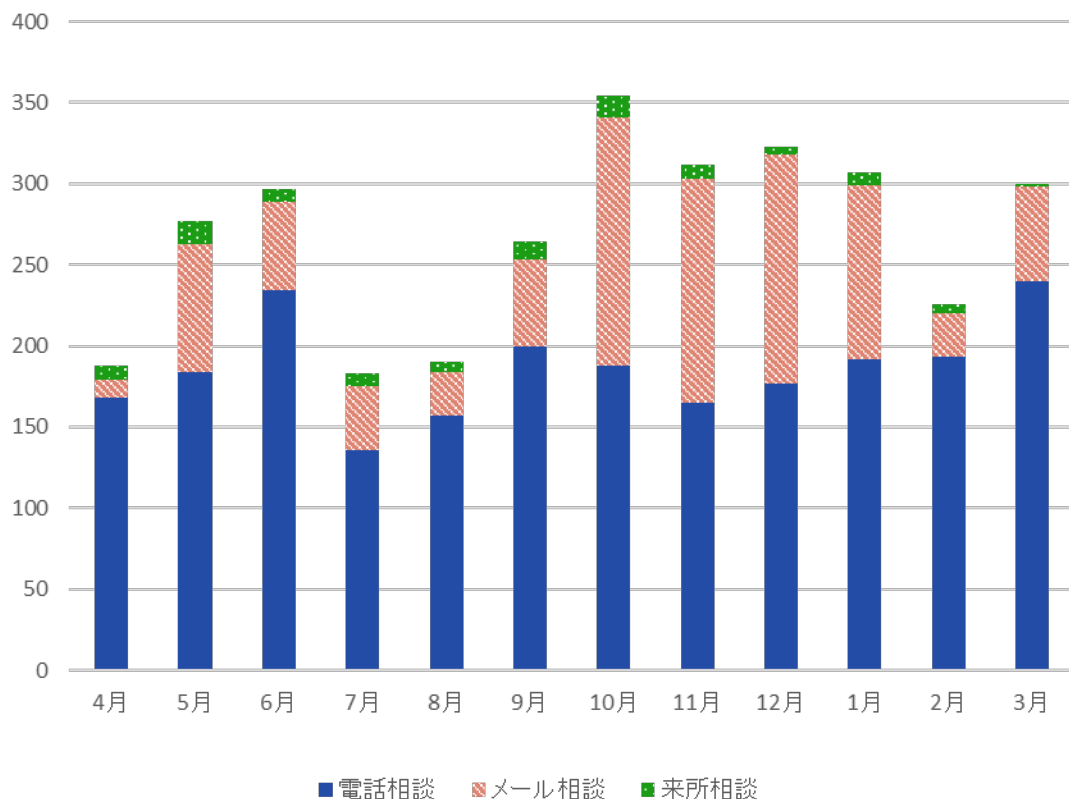


連携関係機関等

○ かながわ女性の不安・困りごと相談室

「かながわ女性の不安・困りごと相談室(かながわ女性相談室)」を設置し、県内の不安や生活上の課題を抱える女性から、多くの相談を受け付けた。

不安や課題を抱える女性からの
相談件数の推移(令和4年度)



相談室チラシ



相談室・居場所
の様子

○ 支援従事者向け研修

オンライン開催により、女性相談員や他の民間団体の支援従事者に対する研修を実施。支援現場の課題共有や相談対応のロールプレイ及び少人数のグループディスカッションなどを行い、参加者の有益度が高い研修となった。

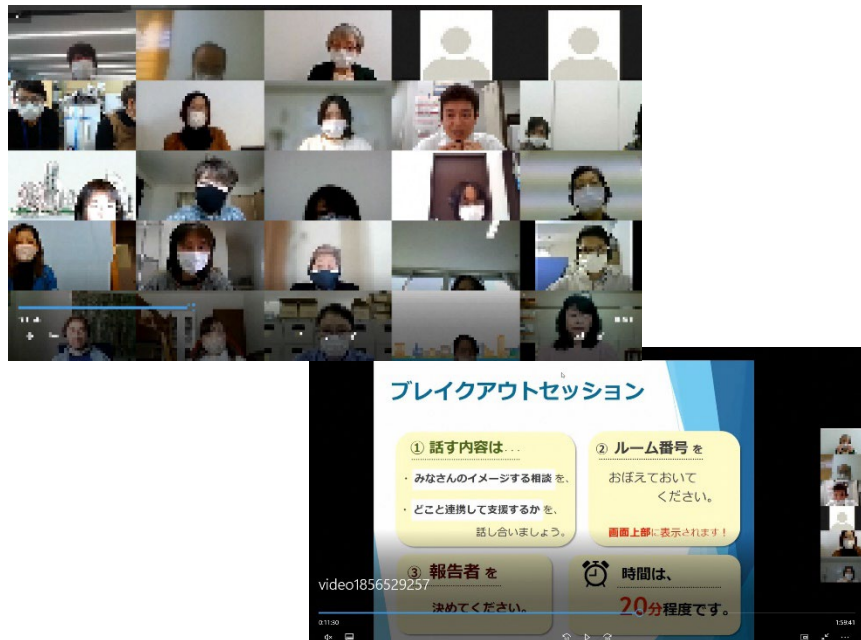
【第1回研修】

- ・実施日：令和4年11月28日（月）
- ・研修テーマ：「女性支援の現場で、こんな支援が欲しい、こんな支援があったらいいのに」

【第2回研修】

- ・実施日：令和5年3月17日（金）
- ・研修テーマ：「電話相談・面接相談の心得と留意点」

研修のようす



参加者アンケート結果

	第1回研修	第2回研修
大変良かった	57.2%	76.2%
良かった	35.7%	23.8%
どちらでもない	0%	0%
やや不満	7.1%	0%
不満	0%	0%